第３回宇美町総合計画審議会 会議録（要旨）

日時：2021（令和４）年 ６月１５日
場所：宇美町役場２階大会議室（左）

１．開会あいさつ
２．会長あいさつ（嶋田会長）
３．事務局からの説明
（１）第７次宇美町総合計画基本構想案（案）について
①第７次宇美町総合計画基本構想（案）について
（２）今後のスケジュールについて
４．閉会あいさつ

＜１．～２．割愛＞

３．審議（意見・質疑）
（１）第７次宇美町総合計画基本構想案について
〇これはゆくゆくはリーフレットになって全町民に配布するのか。ここで意見をお話ししたいと思うが、これはやはりここに書いてあるように行政の夢や願いや町民を大事にする思いが伝わるものだと思う。それで町民にも例えば今の宇美町の危機、困っていることをもう少しアピールしていいのかと、その危機感が伝わらなければ皆さんの努力をさらっと流す可能性があるので、やはり今国の現状はこうでまちの現状も厳しいということを入れていいと思う。

例えば教育の立場から言うと、やはり貧困家庭が学校にも影響を受けている。学校では学力テストの結果を割と尊重するというか、それは支障になっているが、調べていくと学力が高い市町村は市民や町民の給料が高いということがある。県内で一番学力が高いのが新宮である。新宮は所得が高い。次に高いのが筑紫地区。一番厳しいのが山越えした筑豊のほうで、宇美町もやはり貧しいほうに入る。宇美町も大変なのだというところを匂わせていかないと先ほど言ったようにさらっと流れていく可能性があるから、やはり皆さんが持っている危機感が伝わるようにもう少し社会の動向などを入れていく。

新聞等を見ていると日本がこれから先も危ないといったようなことを言っているが、あれも入れていいのではないか。今日の新聞にも載っていたが引きこもりの増加や不登校の増加といったものを少し匂わせていいのかと思う。宇美町も不登校はかなり多い。それは全部貧困や地域の状態がまだ不十分だから生まれてくると思うので、それなどをぼんと織りこんで、これを解決するためには町民の主体的な参画が必要だと、昔で言えばケネディ大統領のような感じで言っていかないとただのリーフレット

で終わるのではないかと思った。（委員）

〇やはり全般的に、このようにまとまって出てくるとさらっと流れてしまう、あまりインパクトというか全部いいことが書いてあるが印象に残らないという感じがあるので、今おっしゃったとおり、課題の部分というかこういう大きな困難を抱えているということを一方で伝えつつ、他方で夢というかこういった中でも頑張ってそれを克服している地域もあるということ、宇美町もそのようにできるのだというような、そのためにこの計画をつくるのだというインパクトを出していただくために、そのメリハリをもう少し出していただければというご趣旨ではないかと思う。（会長）

〇まずこれを手にしたときに感じたことは、非常にベたっとした何の特色も見当たらない。インパクトということである。それが私の第一印象である。これから入れていくと思うが、もう少し写真やそういったものをもっと入れて視覚的要素、ビジュアル面をもう少し強化しないといけない。せっかく業者に委託しているから、視覚的なところも強調してほしいと思っている。

6 ページ、7 ページに言及するが宇美町の特色はたくさんある。いいところもたくさんある。これまでやってきた取り組みの成果などというのも、ここで出さないといつ出すのという気がしている。それを今から言うのでこれももっと図や写真をたくさん入れて、もちろん危機的なところもしっかり出さないといけないが、宇美町はこんなに素晴らしいだというところをアピールする。例えば高速道路網に恵まれた立地条件なら地図を入れて、これだけ都心部に近いとか、公共の交通機関はこんなことがあるといったことをしっかり打ち出す。

あと、自然に恵まれた住みやすい環境なら周りの山の様子もいいし、最近取り組んでいるハーブの取り組みや、この大都市の近郊でこんなこともやっているということがぽんと伝わるような見せ方といったものも必要ではないかと思っている。次の学校卒業まで総合的に支援する子育て環境・教育づくりのところでも、ＧＩＧＡスクール構想で近隣の市町村よりもいち早く取り入れて、子どもたちの学力が一気に 15 ポイントほど上がった。そういったことを目に見えるかたちでこういったところに出したり、例えば健康で安心して暮らせるまちづくりという福祉環境の増進では、これまでトレーニングルームなどで素晴らしい活動をしているといったことを廃止するといった言葉につなげないで、しっかり残していきます、成果がありましたといったところも、トレーニングルームで活動している写真を入れるなどしていくと、私は宇美町の特色というのが非常に分かりやすく町民の方にも伝わるのではないかと思っている。

また、温かい人づくりといったところでは 100 周年の取り組みをした。いくつか中止になったが、そのあとまちづくり課が中心になって共働事業 22 事業などをやる。

そういった取り組みをもっと出そう。あと、ボランティアのところではファミリーサポートセンターもしっかり機能しているのだからもっとアピールしようなどと、やっていいのではないか。あと由緒ある歴史のところも宇美八幡宮の特色や、せっかく日本遺産に選定されたことをもっとアピールしていいのではないか。こういうところが非常に気になるところである。

見せ方の問題はこれから工夫していくと思うが、ぜひそういったところをしっかり強調していただきたい。2 ページで宇美町の特色はとてもではないが語れないという気がしている。よろしくお願いしたい。（委員）

○前提を確認しておきたいが、これはこの特性をなぜここに入れているのかというその趣旨が不明確だから今のようなご意見が出てしまうのかと思う。これは観光パンフレットではないので別にＰＲするために入れているわけではない。要するに作りとしては、第 2 部で構想部分の柱というのは課題に対応している。課題にそれぞれ内容が対応していて、その課題を解決する際にその特性を生かしていくというかたちで、生かしていく視点としてその特性を語っているのではないかと思うが、その趣旨が明確でないので今のようなご意見が出てくるのかと思う。

確かにＰＲのためではない。おっしゃるとおりもっときちんと語らなければいけないのではないかという気がするが、まずこの第 1 部の構成がぼんやりしてしまっている。その構成として全国的な話があったり宇美町の課題があったり特性があったりという、ここは第 1 部の構成自体を目次だてのメッセージ性というか、なぜこれを語るのかということをもう少し明確に語ったほうがいいのではないかという気がする。（会長）

○なぜ今のようなことを言ったかというと、第 6 次総合計画の総括がきちんとここに表れていない。だから 6 次でやってきた、それまでにやってきた成果というものをきちんと検証したうえで、こういった成果があった、今私が言ったような成果といったところをもう少し工夫して、きちんとした検証結果としてこういったところに出ているというようなことが表れてくると、町民に対して、これは町民向けのものだから。（委員）

○今のはとても貴重なご意見で、むしろ別個に入れたほうがいいかもしれない。今回第 7 次を作るときにこれまでの計画の到達点、何が課題として残ったのかということはやはり明示しておいたほうがよろしいか。そこを取り上げていくのだという、今のは重要なご意見かと思う。特性の部分とそこは分けて論じたほうが分かりやすいのではないかと思う。あともう一つ今のご意見に含まれた趣旨というのは、書きぶりが、どうしても仕方ないが抽象的である。抽象的に書かざるを得ないのもあるが、ときどきはやはり具体性がある細部が描かれれば描かれるほど、やはりそこは人の心に響く。人に何か伝えるときというのは、抽象的な言葉だけではなく私はこのようなこと

があってと具体的な話を出す。もう少し部分的に具体的な事例などを挙げていただくと伝わりやすいのかと、そういう工夫をしていただきたいという趣旨も含まれていたように思う。よろしくお願いしたい。（会長）

〇今言われたページ関係もあるが、数の関係もあるが表記の問題で、表記の問題は非常に高齢者が多いのに、前回の 6 次に比べていろいろなグラフなどを比べると、さらにまた小さくなってきている。その辺りがやはりあまり小さいと、高齢者だけでなく見たい、読みたいという気持ちがなかなか鈍るのではないかと思うので、ページの関係もあるだろうがもう少し努力されて、大きくするところを大きくするようなかたちで表記していただきたいと思っている。（委員）

〇今回はあくまで内容的な部分でご検討いただくということで、表現の部分は今後具体的に詰めていくということなので、このまま完成版になるわけではないので、そこはご安心いただきたい。見やすい資料ということをぜひ心掛けていただければと思う。（会長）

〇6 ページ、7 ページでもいいか。一番最初に福岡市や高速網うんぬんと書いてあるが、例えば文化資産というところでは近くに九州国立博物館もあるし、大学で言えばこの近隣にたくさんの、九大も含めてたくさんある。そういったものがこれから町として、また学校の教育として活用できるものになるから、この宇美町の特性として入れていいのではないか。以前の仕事でスクールカウンセラーを各学校に入れるような仕事をしていたが、福岡管内は大学がたくさんあるからスクールカウンセラーが学校に行くことができた。宇美町もスクールカウンセラーがすぐに入った。

筑後や南のほうは大学が近くにないからいけなかった。たくさんの素晴らしい大学があるので、そういった大学などもこれから先資源として活用するような資産と取ったほうがいいと思う。行政学の専門家がいるのでそういった先生方をどんどん入れていきましょうといった、住民として安心できるようなことをしたほうがいいと思う。話が飛ぶが江戸時代に潰れかかった藩があったが、米沢藩などであるが、そこで貧しい中で一番大事にしたのはやはり学問であった。だから、宇美町もそうだとは思わないが、やはり宇美町が再興していく、発展していくためには学問だと思う。そういった学問やたくさんの資源が宇美町の近隣にあるのでそれを使いましょうといったアピールをしていくと、またハイカラになるのかと思う。（委員）

〇今おっしゃったのは結構重要である。繰り返しになるが、宇美町の特性というのは言い換えると宇美町の資源、地域資源なのだと思う。結局、これからの総合計画なので、これから先どういう地域づくりをしていくかというときに、やはりいい部分を積極的に使っていきましょう、資源を使っていきましょう。その資源とは何ですかといっ

たときに、今おっしゃったのは学問や人という部分であり、そういった部分というのはもっと使っていいのではないか、活用するべきなのではないかというご指摘だと思うので、ぜひ入れていただけると。温かい人のつながりの町民活動といったものはあるが、それだけではなくいろいろな知恵を持った人たちがいる。いろいろな経験を持った人たちがいる。そういったものをきちんと生かしていきましょう、強みですよねということはあってもいいのかという気がした。（会長）

○総合計画というようなものを考えたときに、総合計画とは、町民レベルに落としたときに何だろうと思ったら、やはり町民と職員の皆さんが共有するまちの向かうべき方向性かと思った。それは私が考えてみたところだが、そういう考え方でいいのかどうかということをもう一度確認したいことと、仮に一緒に考える方向性だと思ったら、この課題などというようなものは、町が考えていることなのだなというところで私たちレベルまで下りてきていない。下りて来にくいというか、だから言葉をもう少し工夫する、訴えるようなかたちに、一緒にやりましょう、やるんだというようなかたちに何か工夫ができないか、言葉遣いにと思う。言っていること、山の上は一緒だが登り方を変えるような工夫が必要なのではないかと思う。町民にとって分かりやすくそして簡素で、取り組みやすいといったことと、職員の方々にはやはり目標がはっきりしていて評価をしやすく、明確だったりスケジュールだったり予算取りがあったりということが、こちらの立場とこちらの立場をはっきり考えられるように仕組んでいく必要があるのではないかと感じた。（委員）

○これもまた重要なご指摘をいただいた。まず解説をさせていただくと、総合計画といった場合に2つのタイプの総合計画がある。1つは行政計画。行政の総合計画と言うべき総合計画で、これはどちらかというとこれまで多かった。それに対して最近は、行政の計画だけではなく住民も目的達成のために対応するといったことを組み込んだかたちでの自治体計画、自治体全体の計画というタイプのものが全国の中でぽつぽつと出てきているという状況である。もしその後者の自治体全体の住民も計画を実現していく主体として位置付けるような計画となると、まさにもう少しプロセスを、計画策定当初に変えていかないとけないという部分がある。

今回はまず基本はこれまでどおりの行政の計画であろう。ただ、将来的に次の総合計画ではやはり自治体計画でなければいけない。その足掛かりとして、今回の計画であっても住民を排除するといったことでもなく、それが柱の6つ目の部分、みんなが知恵と力を合わせるまちという部分に部分的に含まれているのかということである。だからそういう意味でいうと今回の計画は基本は行政計画中心なのだが住民もそこに一部入り込んでいるというかたちでの、一緒になってやっていこうという要素も含まれているというものになっていると思う。

そのうえで、もう一つ重要なご指摘がやはりどうしても、これは以前も申しあげたが総合計画特に基本構想は抽象的になりがちである。こういったものになってしまうと、結局抽象的にはこうやって言えるが、それと全く連動しているか分からないような個別の事業がぶら下がっていて、それをやったことがこれにつながったどうかもよく分からないということが起こりかねない。そこで今私が事務局の皆さまに強調して申しあげていることは、このあとお話をしていく基本目標といった部分で 6 つの柱があるが、例えば健やかに暮らせるまちとは具体的にどのような状態をいうのか。どのような数値なり状態を達成すればそれができたと言えるのか、そこをはっきりさせる。そこをはっきりさせないと、結局はそれに関連する事業をやりました、やってみましたというだけで終わってしまって何の効果もない。

逆に言うとこの柱を具体的に落とし込んでいけばそういった目標数値もはっきりしてくるし、予算との連動もできてくるということなので、ここの具体化が非常に大きな柱になってくる。そういう意味で言うと、これを具体化しているのは実践計画にあるが、そこの部分が非常に大きな肝になっていくのだろうと思う。ただ、その実践計画を議論していくうえでもまず大枠としてのこの基本構想の部分がこれでいいのかどうかということである。そこを議論していきたいというのが今日の趣旨である。

時間の関係もあるので前段についてまず、他に特にこれは言っておきたいということがあったら言っていただいて、特になければ後半部分の基本構想に話を移していきたいと思う。（会長）

○8 ページ、9 ページの書きぶりが少し気になる。宇美町の現状として（1）の人口のところだが、まず全国各地で人口、高齢化が進んでいる、人口減少が進んでいる。でも宇美町は何とかこの人口減少に歯止めを掛けて、今横ばいから若干微減というところに移っている。そうした中でこの課題の書きぶりだが、宇美町の特徴としてはやはり福岡都市圏の中でも一番急激に高齢化が進んでいる、これが一番の大きな課題であり、そういうことによって地域の活力、まちの活力が失われていく。これが一番大きな課題ではないかと思う。

どこも人口は減っている、高齢化が進んでいるが、宇美町は特に急激な高齢化が進んでいる。そういったグラフを入れてみて、都市圏の中の高齢化のグラフなどを入れてみて、いかに宇美町がそういった突出して急激な高齢化が進んでいるのかが分かるようなことも入れていただきたい。あとその下である。これは誰が目標数値を決めているのか。2030 年の目標数値を 3 万 6,000 人や、この目標数値は誰が今の段階で決めているのか。ここが知りたい。

なぜこんなことを言うかというと、少し低すぎやしないかと、やり方次第では人口増にも結び付けられるのではないかと思っているが、ここでこういう少し低い目標数

値を掲げていることの意味は何か。それともう1点だけ、この9ページだが、財源の確保が最大の課題というこの書きぶりも、今財源は増えている。町民税も過去最高をずっと記録しているし、ふるさと納税もうまくいけば10億という目標も達成できるのではないか。そうなると財源の確保が最大の課題ではなく、いかにその限られた財源をきちんと投資できるか。そういったところが課題になるのはないかと思っている。この書きぶりが非常に気になって、そういった考え方なのはなぜなのかというのが聞きたい。（委員）

○今3点あったかと思う。1点目は、やはりインパクトのある書き方になっていないということである。最も高齢化が進んでいる、急速に進んでいるという、その語るべきことを、例えばここのところで総人口は平成17年をピークに減少という情報は必要なのかということである。多分必要はない、こんなことは。むしろやはり一番強調したい事柄、伝えたい事柄を厳選して語らないと駄目だと思う。

　私はよく学生に言うが、ナポレオンが初めてロシアに上陸したとき、赤いサスペンダーを付けて行った。なぜか。答えはズボンが脱げ落ちるからということだが、赤いとかロシアといったことを言ってしまうと、何かそこに意味があるのではないかと思ってしまう。余計な情報を入れてしまうと、そちらに注意が分散してしまうので、やはり必要な情報を確実に入れていく。あまり余計なことは言わないということで言うと、やはりこの総人口は平成17年をピークに減少といったことは、別にここで強調することではない。

　むしろそれによって、人口が減ることによっていろいろな問題が起きるということを語ったほうが、多分危機を抱いていただくためには重要かと思う。ここで大事なのは多分危機を感じていただくということだと思うので、そこを考えていただくということである。あと2点ご指摘があったのが、まず3万6,000人という人口目標ということについて、これは人口ビジョンでそのように設定しているのではないかと思うが、いかがか。これはおそらく議会で議決もされているかと思うが、地方創生のときの人口ビジョン、これを2014年、2015年辺りに設定していると思う。そのときにこういった数値になっている。

　ただ、他の数値について今回の計画、宇美町総合計画ではと、これは前の総合計画であるか。（会長）

○今回の総合計画で目標数値を掲げたような書きぶりだが、もう決まっているのか。（委員）

○ここの書きぶりは少し考えなければいけない。この書き方だと、この新しく作るものでこういう設定をしているといった話になってしまうので、そこの数値変更ということも含めて考えていく必要性はあるのではないかと思う。今おっしゃったとおり、私としては宇美町の地理的条件などを考えていくと、本当はもう少しいけるのでは

ないかという気は、個人的には私はしている。ただし、それはこのあとお話しするが今の総合計画のビジョンでいくとプラスマイナスゼロにしてしまう感じのイメージで、より強い魅力を発揮する感じでもないような計画になっている印象があるのでそこを変えていかないといけないが、やり方次第では現状維持は難しいかもしれないがもっといい数字はいけるのではないかと思っている。

3 点目が財政状況について財源確保が最大の課題という書きぶりについていかがかということだが、これは事務局からお答えいただく。(会長)

→9 ページについては財政担当課とも話し合って作ったページにはなるが、財源の確保はこれからも努めていかなければいけない重要なところだという認識はしている。そして先ほど委員にお話しいただいた、それをいかによく投資していくかという視点をさらに考えていかなければいけないと思うので、そこはより伝わるような内容にしていきたいと思う。まだまだ十分ではない、これから抱えている、宇美町がやっていかなければいけない、どうしてもやっていかなければいけない施設の維持などにお金もかかるし、これからどんどん高齢化していってどうしても出さなければいけないお金がどんどん増えていくことを考えると、まだまだここの財源の確保というところは、だいぶ増えてはきているもののまだまだ十分ではないのかという認識を、財政担当課と私たちは思っている。

○補足すると、こちらのページで経常収支比率と出ているが 95.7%である。これはどういう意味かというと、経常収支比率というのは通常必ず行わなければいけない業務に対して費やす予算の割合が 95.7%である。昔は 75%超えるとまずいと言われていたが、今はどこの自治体でも 9 割を超えることが多い。その中でも 95.7 というのは非常に悪い数値である。つまり、4.3%しか政策的経費に使えないという状況である。これはかなり厳しい状況であって、やはり今後交付税措置、国からのお金というのがコロナ対応で国は非常に増やしているので、おそらく私どもの想定としては今後 10 年ぐらいの間には相当厳しく交付税が縛られてしまうだろう。そうなると本当に厳しい状況になってくるということなので、財源の確保ということは最大の課題である。

一方で、今逆に委員がおっしゃったとおり、これまでいろいろな部分で獲得されていて、そうすると財源確保は何事をするのかという部分が逆にあり、それでいくとやはり財源の確保も財政支出の部分の見直し、とりわけ公共施設の老朽化に伴ってそこが一番かかってくるので、そこをどうするか、支出の部分を調整していくかという、そこは大きな課題なのかと気がしている。(会長)

○10 ページの下の図の重要度であるが、重要度が高い分、その分が満足度が低いということになっている。町民の方の意識としてはこれが顕著な表れだと思う。この赤の

下線の中が、ほとんど環境に対しての住民の方の要望の重要性が高いのに、まちがあまりよくないということだと思う。まさに今先生が言われた財政状況の、卵が先かニワトリが先かの話ではないが、そういったところの財政状況をもう少し分かりやすく表記できないものかと思う。今現在民間委託を検討する必要があるというが、保育園に関しても民間委託を今している。そういう具体例も、これは基本構想だからどこまで書けるかというのはあると思うが、町民の方にはこういうことをしているのだということはもう少しアピールできてもいいのかと思う。現在進行形の分に関しては。（委員）

○先ほど申しあげたとおり、これまでの取り組みについては１節分設けていただいて、この到達点を語っていただいたほうがいいかと思う。今、委員がおっしゃった部分も含めてお願いできればと思う。ここの交通網と道路網に関して少し気になっているのが、国道や県道はともかくとして町道はどのくらいあるのか。つまり、ここで言う交通網・道路網というのがどのレベルのことを言っているのか。小さい道と書いているのは町道でいいのだろうが、むしろこれは県道や国道の話をしているとすれば、なかなか宇美町がどうこうといってもこれはどうしようもない部分があるのではないかという気がする。

逆に言うとここにこうやって出す以上、ここは宇美町がどうこうできるという創造性があるという前提がないとおかしいと思う。そこはいかがか。（会長）

→ここは町民意識調査から結果を分析した図だが、この道路網の充実という書き方の中で道路の種類について限定していたりはしないので、一般の方々の感覚としては町道や県道というところの区別もなく、この道路網全体についての要望になっているので、そういう意味では県道やそういった部分について不満が高かったりといったことも含まれた結果となってしまっている。

○そうすると実際その町道で造るという割合は高いのか。一般的な自治体でいうとやはり県道や国道が多くて市町村道は、小さい道はあるが。だからそこを、なかなかこの部分はこうやって上がって総合計画にばんと出してしまってもちょっと難しい部分があるのではないかという気はする。もちろん町として議会と一緒に町長が県や国なりに要望を出すと、これはやる必要はあるが、それは相手があることだからなかなか難しい部分がある。（会長）

→これは町民アンケートから出てきた意識調査の中での満足度、重要度というところなので、本当にこれが結果というかたちになるので、それを隠せないというかここを避けて通れない部分ではあるのかと思って、このような表示の仕方になっている。

○基本的にはやはり、書き方はこれまでの計画の取り組み方向について改善を検討する必要がありますということで、取り組みを町としてはやっていきますといった書

きぶりになっているが、これについては国および県の果たす役割が大きいので引き続き要望をしていく必要がありますというような書きぶりにしないとという気がする。（会長）

○4 ページに少子高齢化、人口減少の一層の進行ということがあるが、年々減少、人口が減少している。これはあたかも自然減少のようなかたちで書かれている。全国的にはやはりどこの自治体を見ても自然減少のようになっていて、しかしこれは少子化対策としては若い男女が適齢期を迎えて結婚をする。そして子どもが誕生するということだが、この結婚の条件が全国的に整っていないのではないか。そのように思っている。その原因は何なのかと聞くと、非正規が 4 割を超す勢いで安倍総理の時代に 4 割を達成したというニュースを聞いた。ということは非正規は給料が低い。経済力不足である。それは全国的な傾向として宇美町で結婚して子どもができると、こんないいことがあるのですよというようなものはないのかと、そのように思う。

そして続いて 11 ページにいきたいが、後期高齢者の医療費は 5 年ほど前にその資料を見たことがあるが、そのときは 130 万円以内だったと思う。5 年たてば 10 万円ほど余計に医療費がかかったりしている。私も後期高齢者の一員だが、考えてみれば毎年 1 週間か 10 日くらい、1 年に 1 回くらいはけがをしたとかあるいは健康診断の結果ポリープができたとか、そういったものが年々、1 年に 1 回くらいは必ず 3 年続けて入院している。私も医療費を使っている張本人だが、これは今後とも進むのか。おそらく進むであろう。そうするとこれに対してその啓蒙活動というのはどうするのかという気がする。

5 年前にその資料を見たときに、私にこれだけの資料を見せられても打つ手はあるのかという気持ちになったが、今後定期検診の受診率を上げるだけで解決するのか。何か他に原因があるのではないかという気がする。以上 2 点気が付いた。（委員）

○2 点、個別の話になってくる。両方個別かもしれないが、まず 1 点目。私からのコメントに替えさせていただくが非正規問題はおっしゃるとおりで、これがやはり若者たちの不安定性を生んで結婚の遅れをもたらしている。あるいは結婚できないという状況をもたらしている一因であるということは間違いない。ここの部分は国としても対応を求めているわけだが、宇美町が例えば総合計画や自治体として何ができるかというときに一つあり得ることは、やはり非正規の処遇を変えていく。

昔は特に高学歴の女性などが田舎に帰っていくときの一番の仕事先は小学校の先生と図書館司書だった。ところがこれが結構一様に非正規化していて、そうするとやはり帰ってこない。若い女性が、帰ってきても非正規の状況にあるということで、例えばこういったものを正規化していくという方向性に変えていけば実はプラスになるのだが、他方で先ほどの財政状況ということになってなかなかそこは認めてもらえ

ないという部分がある。そういった安定性に寄与するように非正規をなくす方向での取り組みをしていくといったことを総合計画の中に抽象的に書き込んでおいて、その足掛かりをつくるということは十分あり得ることかと思う。それもどちらかと言うとこのあとの基本計画、実践計画の部分になろうかと思うが、以上書き留めていただければと思う。

あと医療費の部分だが、これもご指摘のとおりで今後非常に増大していくと見込まれているが、実はこの2年間この医療費をめぐって大きな変化が生じていて、赤字は赤字だが赤字額がこの 2 年間大幅にその前と比べて減ったということがある。なぜか。コロナで受診を控えていたからというのと、あともう一つはマスクといわれている。皆さん実感されていると思うが、コロナの前は結構風邪を引いていた。みんなマスクをするようになって風邪を引かなくなったという面があり、あれがやはりプラスに働いているのではないか。

なので今言われていることの一つは、コロナが終わった後もマスクをみんながするようにすると医療費は大幅に削減できる部分があるのではないかということが語られている。これも各論的なことになってくるので、その足掛かり的な部分を実践計画の中に抽象的に書き込んでいただくということはあり得るかという気がしている。
（会長）

○10 ページ、よろしいか。今お話ししたことと関連するが、10 ページの下のグラフである。悪い部分だけを強調している。ではなくてやはり満足度が高いものについて、赤字でなくてもいいから黒字で書いてもいいのではないだろうか。この 1 番を見ると住民の満足度が見えてくる。それから 50%を切るとマイナスなのか、例えば 60%が満足して残り 40%が不満というのは危機感を持つのか、その辺りの基準が分からない。基本的には困っている人が 10%～20%いれば、やはりそこは危機感を持つべきだと思う。整理すると、とにかくＣやＤ、Ｅについても満足度が高いものについては書いていいのではないか。

それから上の円グラフのところだが、私たちのように 60 歳過ぎの者と子育てをしている世代の方々の満足度は違うと思う。もしそこに著しい差異があれば、例えば 20 代～30 代の愛着度と、もうどこにも行けない年配者の愛着度と書いていいのかと、一つ思った。それからついでに 13 ページだが、この商工業の振興と交流機能のところだが、例えば町内就業者数が書いてあるけれどもここを産業別に載せてもいいのかと思う。

例えば商業と工業と農業、それから食糧危機が今叫ばれているので、私だったらコメや野菜の栽培面積が少なくなっているというところも載せていいのかと思う。今のままいくと日本は自給率が低いから、例えば異常気象や紛争が起こったらすぐ飢えて

いく可能性がある。その辺りに対する危機感を持たせるためにも、町内就業者数のところで農業や工業などいろいろなものを入れていく。そして一番大事な食べるためのところについて、やはり危機感を持たせるためにコメや野菜の栽培面積も載せていいのかと思った。薬用作物の栽培面積が、これは少ないないのか、あまり私は感じないと思う。困らないからということである。（委員）

○2 点あるが、まず 1 点目。例えばこの図表やデータを出す意味というのがあいまいだから今のようなご意見が出てしまうのかと思う。つまり、この 10 ページの図に、元々 10 ページの上のところから見ても愛着度が必ずしも高い人ばかりではない。あるいは今後の移住・定住意向も「どちらかといえば住みたくない」人も結構いる。これをどうにかするためには、やはりその満足度が、重要であるにもかかわらず満足度が低いものに手を打つことによって、この愛着度を高めたり定住意向を高めたりすることができるのではないかという仮説があってこのデータを出されているのではないか。

だとすると、あまりここで満足度の高いものについて語っても意味がないということになってくるわけだが、そういうデータの読み取りがやはりしにくいかたちになっているから、今のようなご意見が出てしまう部分があるのかと気がした。あと、重要が高い、低いで、低くても例えばここでいうと、重要度 40%であっても重要でない、50%を切る実益はどこにあるのかということはご指摘のとおりで、もしかしたらこの図に関して言うと、特に今道路網や交通網に関しては、これはやはり県と国の仕事なので、やはりなかなか挙げてもどうしようもない部分がある。もう少しこのＢの領域も広げたうえでピックアップしてもいいのではないかという感じがした。50%で切る実益がないのかもしれない。

あともう一つは商業振興の部分で、薬用作物栽培面積は重大ではないのではないか。なぜこれを取り上げて、もっと重要なデータがないのかと、この辺りはおっしゃるとおりだと思う。別に薬用作物の栽培を挙げてもいいが、やはりその理由が、これだったら必要がないわけなので、もう少し何を伝えたいのかということをきちんと意識したうえでデータを出しておいていただきたいと思う。（会長）

○10 ページの書きぶりである。これも、町への愛着度が何%ある、今後の定住意向が何%ある。これが多いのか少ないのかということが分からない。他の自治体と比べてこの数値が高いのか低いのか。もしかしたら低いかも知れない。あるいはもしかしたら高いのかもしれない。ここが高いか低いかというのは、ぜひ分析の中で入れておく必要があるのではないかというのと、全体に作りが甘いのだが特に 12 ページの 4 番の住み続けたい、住み続けたくなる住環境の整備で、全然コメントもなしになぜかゼロカーボンシティーへの宣言が出てきたり、分析も何もせずなぜゼロカーボンシテ

ィーへの宣言が出てくるのか。

そういったところであったり、あと例えば5番の商業振興のところだが、せっかく宇美町でふるさと納税の返礼品などで町内の業者さんが作った物がやっと売れ出したと、なぜそこを書かないのか。それを通じて、ふるさと納税を通じて産業の振興や農業の振興にしっかりやっていこう、やれていないというようなことがきちんと書かれるとか、この全体的な課題の評価が甘いのではないか。しっかり課題を分析しないと次の展望は見えてこないと思うので、もう少し全体的踏み込んで、今言った一例である。そういったところを、しっかりもう少し現状分析をやったうえで次の展望に結び付けていく。これがもっと必要ではないかと思うが、いかがか。（委員）

〇今おっしゃったとおりで、やはり作りとしてのデータのあるものを使いたくなるが、データが入ってしまうときちんとした分析などができないと思う。まず、住み続けたい、住みたくなる住環境とは何なのかということが、まずきちんとあって、それをめぐる現状はどうなっているのかと議論を組み立てていかないと、関連したデータはどれだろうと探してこれが関連しそうだなとやってしまうと分析が甘くなってしまう。それはやはり避けていただきたいと思う。

もちろんデータはあったほうがいいが、必ずしもデータが明確に数量化できなかったとしても具体的なエピソードや、もう少し分析するようなかたちで書いていただいたほうがいいのではないかという気がしている。やはり本当になぜというのが確かに多いのは事実である。（会長）

〇これではどうだろうという感じである。（委員）

〇この大きいスローガン、「住み続けたいまち　わたしたちの誇り　宇美」と、これは誰が考えたのか。それが知りたい。というのは、今町から引っ越していく人、出て行く人と入ってくる人の数を比べると、少し入ってくるほうが多かったのではないかと思う。出て行く人が少なければ少ないほど、それだけ町民の数が増えていくわけだからいいのだが、あと町に誇りを持ってもらいたい。これもよく伝わる。とても、町にしっかり誇りを持って、愛着を持っていただけたら出て行かない人も増えるのかと思うが、誰が考えたのかということをまず聞きたいのと、あとサブタイトルや、17ページにあるサブタイトルはある。普通、記事を書くのに一本見出しでぼんと書くよりも、サブタイトルをいくつか付けてやるとか、そのほうがいいのではないかと思う。どうなのか。分からないが。（委員）

〇これはどのように策定されたのかということについてご説明いただけるか。（会長）

→町民意識調査、宇美町トークカフェ、もろもろの資料を基に職員全員が策定部会というかたちになっている。そしてその中の代表者であるプロジェクトチームがあって、これからの社会が抱えている課題や今言ったような資料関係を基にして、町民の望むことも踏まえながら、現在住んでいる人たちも住み続けたいというところが

まず基本である。そして、宇美町に魅力を感じて入って来られた人たちも住み続けたいと感じていただけるというところから、「住み続けたいまち」というフレーズがまずできた。

そして「わたしたちの誇り」という部分は、プロジェクトチームの願いでもあり、トップインタビューの中から出てきたフレーズということもある。

委員がおっしゃったいくつか、3 つくらい何かこれを補足するようなことが必要なのではないかということで、第 6 次のときも基本理念があって将来像があってというかたちだったと思うが、今回基本理念に該当するものとしては一番最初のページに載せている、これから先長くずっと続く宇美町の町民として大切していきたいことは、町民憲章で言っているということで掲げている。それを踏まえたうえで、この 8 年間の将来像というところになる 16 ページというかたちになっている。

もう少し、「住み続けたいまち　わたしたちの誇り　宇美」を、これだけの言葉だけで示すのではなく、もう少し補足が必要であるのではないかというご意見はそのとおりかと思うので、検討したいと思う。

〇なぜこれが付いたのかというのはもう少し説明がほしい。ここに一応書いてはあるが、やはり、ぼんと掲げるイメージというのは非常に大事なので、なぜこの言葉を付けたのか気になった。これが総合計画の一番のメインタイトルの言葉として適切なのかは私も分からない。代案があるかというとそうでもない。なぜこれを付けたかが知りたかったので質問した。（委員）

〇この質問は、経緯を聞いても腑に落ちないということは、やはりいまいちということかもしれない。（委員）

〇何かしっくりこない。とても感じる。（委員）

〇この 6 つの目標を見たときに、第一印象は「みんなで、便利、健やか。」なんだと思った。こういうことは単純化して、私は別で違っていて合い言葉的に単純化するものがまずぼんとあって次のページで説明がなされているようなもののほうが受け入れやすいか、分かりやすいかと思う。ということは、本当の核心は何かということがまず出てくること。そのほうが私は分かるかと思った。あとはこの「みんなで」とは誰たちなのか。「便利」とは誰にとってなのか。「健やか」とはどういうことなのか。先ほど先生がおっしゃったように具体的なものがここには、あまりにも大きくし過ぎて把握しきれない。そのような印象を持った。（委員）

〇ここは難しいところである。そこを具体的に書くと長くなってしまうことがあるが、もう少し分かる、実感が伴うような表現を入れたほうがいいだろうというご意見かと思った。今のご意見は多分その次の 18 ページ、19 ページの中身を見てもぼんやりしてしまっているというご意見かと思った次第である。（会長）

○15 ページ辺りまでの熱気が、17 ページになるとすとんと落ちているような気がする。住み続けたいというよりも、よそから産業や住民も増え続けるようなイメージをここで描いたほうがいいのかと思った。以前志免に住んでいたが、志免西小学校だったが 1,200 人いる。どんどん増え続けている。そんなに距離は変わらない。それは交通もあるだろうが、都心から志免よりも遠いけれどもやはりここに住み続けたい、引っ越したい、こちらのほうがより充実している、たくさん商店街もある、ＪＲも人がいるというような、その辺り積極的なものをシンプルな言葉で入れていかないと、誰が見てもこれはどこの町かと受け止めがちであるから、もう少し皆さんの熱意を入れ込んだようなかたちで、もう少し熱を増やしていいのではないか。（委員）

○町民憲章を意識し過ぎてしまっているのかもしれないと思う。つまり、将来像であるべき姿を描いていく。私もこの「住み続けたいまち　わたしたちの誇り　宇美」と聞いてしまうと、現状維持的な感じ、何と言うか。外の人間からすると、これは宇美に今住んでいる人たちが自分たちの町はいいよねと慰め合って住み続けたいまちというような感じで言い合っているようなイメージがある。そうではなく、これから住んでみたいと思えるようなワクワクする町をつくってほしいのに、つくるというよりも今あって誇りに思っているというようなニュアンスである。

もちろんきちんと読めば、この誇りをつくっていくのだというニュアンスも含まれているが、ただ、これだけを聞いてしまうとそのような感じの、最近日本が少し高度経済成長がなくなって落ち込んできて最貧国になってしまいそうなときに、やたらと日本を褒めたたえて素晴らしいと言っているような、あれと似たような感じを受けてしまう部分がある。（会長）

○「快適で便利なまち」とうたっているが、これは私が今困っている問題だが、実は平成 28 年の 11 月に役場に申請書を出している。要望書、これは町道の人が通る道で車は通らないが、雨が降ると、もう町道に排水口がないもので前の畑に水が溜まって困っているという話があって、5 年半前に申請を出して、その後何の連絡もないから、先週役場で確認したら確かに申請は受けている、しかし他にもいろいろな案件が多く今のところ未定と、それだけの回答である。

5 年半も何も連絡もなく今のところ未定と、それは私はそのまま申請された方に言えなくて、ここでご相談したかった。もう少し何か打つ手はないのかと思う。こういう問題があるということを認識していただきたいと思った。（委員）

○個別的な話になるが、言い方を換えれば、「快適で便利なまち」というこのフレーズがある種図々しく感じてしまうような具体的な現実があるということかと思う。今の問題は行政学的に言うとやはり行政手続き面での不備の問題であって、やはりそ

ういった仕組みをきちんとつくるべきだろう。行政側が、申請があったときに対してきちんと行けるのかどうか。行けないのだったらなぜできないのかということを一定期間内にきちんと対応する。行政手続き条例が一応あるはずなので、それに沿った対応ができていないのか、その要望書というのはそういう公式の文書として必ずしも受理されていない、公式のものだが、それはその行政手続き条例上果たして問題はなかったどうかということは内部でご検討いただく必要性があるのではないか。

仮に今問題がなかったとして、違法とは言えない感があるが、しかしやはりおかしいと思う。やはりもっと、そういったさまざまな要望があったときにどう対処するのか。その仕組みを設ける必要があるかもしれない。どなたか確認したほうがいい。事務方の皆さんにお聞きするが、そういった仕組みはできていないのか。行政手続き条例が国法や国の法令に基づく事務のときには適用になるが、自治体独自の行政手続き条例を制定していると思う。（会長）

→その要望書がどういうレベルにあるのかというところで、私たちも都市整備課に聞かないと分からないのでここでは即答ができないかと思う。

〇それではまた別途。（委員）

〇行政手続き条例と行政手続き法とは、やはり具体的な許可の申請やそういった場合においては適用になるが、要望書というものがどういう法的な位置付けになるのか定かではないので、もしかしたら適用にならない可能性もある。ただ、適用にならないからといってそれでいいというわけではないので、もし対応できる仕組みがないとすれば、やはりきちんと整備いただく。それによって初めてその快適で便利なまちといったことになってくるだろうと思うので、個別具体的な書きぶりはできないとしても、その実践計画の段階で対応の足掛かりになるような部分、例えば住民が行政手続きを要望する際に不便を感じないよう、あるいは「快適で便利なまち」になっていくように行政側が対応できるような仕組みを整備するといったことが入ってくるといいのかという気がする。（会長）

〇これは序論のほうで触れたほうがよかったかと思うが、この場で言う。宇美町が非核都市宣言をしていたと思う。町民の方で宇美町の非核都市宣言を知っている方は、どれくらい浸透しているのか疑問である。その辺りのアピールが弱いという気がして、これはもっとおおいにアピールして、やはり宇美町は平和を求めるまちなのだというところを、昨今のロシアのウクライナ侵攻もあるように国際情勢が不安定な今だからこそ、スケールが大きい話になるかもしれないが、宇美町は平和を求めていくまちなのだというところをばんとどこかに出すべきではないかと思う。せっかくそのような宣言を出している以上、日本も被爆国であるからそういうところで、それともう１点いいか。

基本目標の中に「みんなが知恵と力を合わせるまち」というところがある。町民1人ひとりが互いに人権を尊重し合いという、非常に素晴らしい文言が入っている。やはり今日的に人権というものを考えた場合、人権問題だと、今日的課題というと私はまずジェンダーの平等ということが思い浮かぶ。ジェンダーの平等そしてＬＧＢＴの問題、マイノリティーの人たちの人権、立場を尊重しようというのが、今日的に新しい大きな流れとしてあるので、これをどういったかたちでも 1 行でもいいからどこかに反映させて、ジェンダーの平等を求める、ＬＧＢＴの人たちも尊重する宇美町ということをどこかに入れるべきではないかということを提案したいと思う。（委員）

○今の点は実践計画、基本計画の部分でその柱として 6 番目がいいのか。あるいは 2 の「すこやかに暮らせるまち」というこちらに入れるべきなのか判断が迷う。「すこやかに暮らせるまち」なのか、あるいは高齢者、障害のある人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるようとあって、こちらに含み込んでこちらの柱に組み込んでもいいかもしれない。いずれにしても、何度も申しあげるが実践計画においてこの抽象的な「すこやかに暮らせるまち」はいったいどのようなまちなのかということを具体化していかなければいけない。具体化させるためにいくつかのさらに柱立てが分かれていく。この具体化の中で今おっしゃったようなことをきちんと入れていただきたいということかと思う。

平和の部分をどう入れるかということだが、そこは前文的な部分でというか。目標として掲げていくというとやや難しい部分があるのかと思う。学びの部分などで平和だとかということを入れていくことはありうるかと思うが、どこか触れていただくということをお考えいただければと思う。他いかがか。（会長）

○1 番に入れるか 2 番に入れるべきか分からないが、やはり伝統や未来への挑戦という言葉を入れて、やはり過去のいいものを残しつつ宇美町は将来に向かって前向にやっているのだというようなイメージを抱かせるような言葉を入れたほうがいいと思う。未来への挑戦の中に、例えば移住を増やすとか大学等と連携するなど、伝統の面で言えば昔の商店街を、できるかどうか知らないが復活させるなど、何か、町民に対して宇美町は歴史も未来も人権も大事にするのだというようなイメージをここで与えるべきなのが、17、18、19 ページなのかと思う。

世界中にたくさんの伝統的な企業があるが、1,000 年以上続いた伝統の企業は日本が一番多い。それを、伝統を押さえながらチャレンジしてきた成果である。宇美町も、企業ではないがそれと同じようにやはり大事にしているというようなかたちで、しつこくなるが伝統や未来へのチャレンジなど、使える資源は全て貪欲に求めていくというようなベクトルを示せばいいと思う。今の現状がお金がないとか少子化などがあるかもしれないが、将来的にはこんなかたちで宇美町は生き残っていく、たくさんの人

を幸せにするというようなインパクト与えたらどうか。（委員）

○今のはむしろ柱というよりも全体を貫く一つの視点という感じのようにお見受けした。そうすると先ほどあったように、メインの基本目標、サブタイトルで例えば歴史・伝統を大事にしながら未来をつくるなど、分からないがそういうサブタイトルが入ったかたちで入れてもいいのではないか。あるいはチャレンジという言葉を強調されたが、それが例えばメインタイトルのほうに入っていくかたちでもいいのかもしれない（会長）

○質問をいいか。基本目標ごとの取り組みを 5 つの柱を設置する、この基本構想の中に、この 1 つの柱ごとに 10～15 項目くらいの政策が箇条書きに並んでくるようなかたちになるのか。ここで基本構想は終わりなのか。（委員）

→基本構想は基本構想である。このかたちである。その次に実践計画というかたちになる。実践計画の中で具体的な取り組みを、それぞれこの 1～6 にこういった具体的な取り組みを行っていきますというかたちで書いていく。（事務局）

○なぜそれを聞いたかというと、ここに具体的な施策が何一つ述べられていない。基本構想のこの取り組み方針の中に、細かいことを言うと例えば「快適で便利なまちづくり」である中で、公共交通の利便性向上を図るほかなどと書いてあるがイメージが湧かない。公共交通の利便性を図るといったら、ＪＲの本数を増やすか西鉄の便を増やすか、路線をもう少し伸ばす、あるいは空港直結の路線をつくるといったことが思い浮かぶ。それと同時に宇美町が今度目玉で取り組むオンデマンドバスの取組などがある。そういったことが具体的に全然見えてこない。この中からは、果たしてそれがこの取組方針で大丈夫なのか。何も具体的なことを書かなくて、もわっとしたものだけでこの取組方針というものが終わって、果たしていいのかというのが非常に気になる。後で具体的な施策をたくさん書くからいいと言えばいいが、全然具体的なものが見えてこないというのは非常に気になる。それでいいならいい。（委員）

○これは、もう少し細かな実践計画を進めていく中で、もう 1 回この柱自体の表現も変更していく可能性が出てくる。そういったかたちも組み込んだうえで、現時点で方向付けをしていくためにこれでいいのかどうかということを皆さんに伺っているという感じである。やはり、おっしゃるとおりこれは抽象的なので、これで語れない。これもここを抽象的なものにしたうえで普段やっていらっしゃる事務事業をやって、ここはどれだけ具体化して考えることができるかというのがポイントで、そこを具体化したうえで事務事業を決めていかないといけない。今あるものから出発してしまうと、結局現状肯定でしかならないのでそこをしっかりやっていただく必要があるかと思っている。

限界はあるし、今回ばしっと確定というよりは暫定的に今回こういった方向でいい

のかどうか、現時点でこの方向性ではまずいのではないか。この柱ではなくもっと別の柱がいいのではないかなど、そのようなご意見があれば賜れればということである。いかがか。（会長）

〇子育てに関してだが、私の経験から今から 4～5 年くらい前になろうか。下校指導、子どもたちが帰宅するのに帰ってくるのを旗を持って迎えるということを 4 年間やった。今でも印象に残っているが当時桜原小学校に赴任されてきた教頭先生が、着任早々1 年くらいで子どもたちのあいさつの方法が変わった。劇的に。人の目を見て顔を見てあいさつをする。本当に気持ちのいい、学校に出入りする時、迎えに出る時に、非常に心地いい子どもたちの日常を見たことがある。

それを変えたのは、当時教頭先生として運営されてきて、その話を雑談の中で教頭先生と話していたが、劇的に変わった、あいさつの仕方がとてもよくなった。そうなんですよと、私の教育は人の目を見て顔を見てあいさつしなさいという教育指導をしていると先生はおっしゃったが、そのものずばり効果が出ている。教え導く先生たちの仕事だが、子どもたちがやはり触れ方によっては子どもも変わるのだということを感じた。今から 4～5 年前の話である。やはり具体的に分かりやすくしようと、あるいは言葉を交わすときには人の顔を見ようというような、一つの小さな具体例から始められるといいかという気がした。（委員）

〇今のご指摘は、この 3 つの柱があるがこれを具体化していくときにどういう思考パターンでいくべきなのかということにご示唆いただいているかと思っている。まさに子どもたちが、（あいさつを）きちんとしない、これはいけないと思っていた。それががらっと変わって目を見て話せるような子どもたちになった。それが例えば子育てや学びということの具体的な中身なのだという、具体的な問題点。みんながこのようにしたほうがいいと思っているような具体的な問題点をきちんとイメージしながら、それをどう変えていくか。そのような理想と現実のギャップをきちんと踏まえたうえで、それを変えていくために個別の施策の事務事業が決まる。そのようにしていけるととてもいいのかと思う。今の事例は素晴らしい教頭先生だったと終わったが、このような属人的な部分だけではなく、まさに計画というかたちでシステマティックにまちをよい方向に変えていく。それが今回の総合計画であるべきかと感じた次第である。よろしくお願いしたい。（会長）

〇16 ページだが、全体的にやはり高齢者の方たちが今後増えていくという部分でありながら、でも今がどうかと、これからしばらくは高齢者の方たちが多い部分では多いはずだが、そのあとは必ず減ってしまう。今宇美町にいらっしゃる全員を皆さん財産だと考えると、知識が一番というか財産が一番あるのは今から先までで、その後はな

かなか難しくなっている部分は、引き継ぎをしながら伝承をしながらまた承継をしながらということが、今だからこそできる部分ではあるのではないかと僕は思う。

この 16 ページの将来像のところ、結構大まかなテーマだとは思うが、皆さん今日聞いた感じだとなかなかテーマが難しいかと思ったが、自分なりに見てみたときにテーマはこれで、そのあと 1～6 番でサブテーマというか分けてあると思う。その中に「みんなで」という言葉が 2 つ入っている。どれも「みんなでやりましょう」ということが総合的なイメージだと思っていらっしゃるのではないかと思うので、このメインのテーマのほうに頭に「みんなで」などを付ければ、意外と将来性が出てくるのではないか。「みんなで住み続けたいまち、わたしたちの誇り、みんなでつくろう、住み続けたいまち、わたしたちの誇り」とすると、将来的な部分も出るのではないかと思った。（委員）

○今のご指摘はいくつかポイントがあるかと思うが、確かにこれは将来像と言いながら、「住み続けたいまち　わたしたちの誇り　宇美」と、状態を指している。将来像なのだが、将来目標にしたほうがいいのではないかというご指摘のように感じた。どうしたらいいのかというのは、一つあることである。目標にするのか、大きな全体目標があってその下に 6 つの基本目標がくるというようなかたちで、目標にすることのポイントは主語が「わたしたち」や「みんなで」といったようにはっきりしてくるということなのかという気がした。

私はこの将来像は悪いという感じではないが、「わたしたちの誇り」というのはとても古典的な感じがしてしまって、チャレンジやワクワクといった、これからつくりあげていく、みんなでやっていくのだという感じのフレーズではない。「わたしたちの誇り　宇美」と言ってしまうと。そこが非常に気になってしまうというところである。（会長）

○それに付随してではないが、宇美町トークカフェはまた継続して行われるのか。もう終わったのか。（委員）

→終わった。（事務局）

○何かというと、将来像という点で文言で町民の方が夢を語れる場の提供やそのようなニュアンス的なものなどがほしいと思う。（委員）

○いいと思う。実は私が一番今回の案で全体的な印象として思っていることは、先ほど少し言ったがマイナスをゼロにするという感じの計画になっていて、でも例えばいくつかだいぶ増えているところは何がいいか。もちろん地理的な条件がよかったり自然も豊かとあるが、自然の豊かさは宇美町もある。では何が一番違うのかというと、ワクワク感である。やはりいろいろな新しい動きが、次々と住民たちが、例えば起業する若者がたくさんやってきて、そこにどんどん町が日々変わっていく。あそこ

に行ったら一緒に面白いことができるのではないか、あそこに行ったらいろいろ面白い人たちと出会えて面白い話ができる。そのような感じができると、あちこちで新しいカフェができたり喫茶店ができたり、みんなが集まる場ができたり、それが本当は魅力なのだが、そのような感じの言葉が全然出てこない。今おっしゃったとおり、私も夢を語れるとかチャレンジする、ワクワクするといった感じのものがあったほうがいいのではないかという気が、個人的にはする。

○行政の作られる文書でもあれだから、できないような夢物語はなかなか書けないとは思うが、やはり夢という部分は大事かと思う。それをプッシュしていただけたらと思う。

○私も個人的に夢やチャレンジといった言葉は入ったほうが、これだとおとなしい感じを受けてしまうが、皆さんいかがか（会長）

○まさにこのインパクトがない。言葉の強さというのが全然なくて、べたっとした書きぶりである。例えば１番の「子育てと学びをみんなで応援するまち」などでも、こんなものを目標としたら町外の子育て世代の人に移り住んでいただいて、宇美町で子育てしたいと思わせるような文章になったほうがいいと思う。そこでやはりキーポイントになるのは学力の向上や子どもたちの心と体は任せておけなど、例えばそのような感じの強い力を持った言葉をあちこちに散らせながら、これを見て宇美町で子育てしたい、引っ越して行きたい、いい土地があったら探しておいてというようにつながらないと、なかなか、本当にワクワク感と言われたが、つながっていかない。この書きぶりをみんなで知恵を出し合っていく必要があるのかと強く感じた。（委員）

○基本的にその柱の内容的な中身はいいとして、その表現としてもっととがったものであってほしい。島根県の海士町というところのキャッチフレーズは「ないものはない」というキャッチフレーズである。これは逆に言うとあるべきものは全てあるのだ、不要なものはない。確かに田舎だけれども必要なものは全部あるのだというメッセージである。そういうようなところと違う、「住み続けたいまち　わたしたちの誇り　宇美」というのとは、そういったところも含めて少しとがったものを考えていただく。このメンバーなのでぜひ案を事務局に伝えていただきたいし、最終案はこの場で合意形成していくので、皆さんどうぞ案を考えておいていただければと思う。（会長）

○委員がおっしゃったことと関連するが、やはり心が躍るような文言。例えば今日の朝読んだがキング牧師の”I have a dream.”。私は夢を持っている。差別がない社会をつくるのに”I have a dream.”で言い換えている。また、ケネディ元大統領だったかと思うが、国がみんなに対して何をするかを期待するのではなく、あなたたちが国に何かをしなさいというような、あの辺りの言葉というのは若い人も年配も動かせるというか。何かそういったものだと思う。この基本計画書というのは、だから一つ

ひとつの言葉がワクワクしたり、一つひとつの言葉がかっこいいとか、その辺りをアピールしていかないと、やはり読まないと思う。これは何度も言うが行政の方の魂を込めるものだと思う。だから私たちが読んでもワクワクする、宇美町に対してこのようにするのかというような動きをされると、これを作っている皆さんも楽しいと思う。意見を言われてそれを整理するのではなく、自分たちの心が踊るような言葉を今後考えていかれるといいと思った。（委員）

○とても大事なご指摘で、ぜひ心掛けていただきたいことがある。今キング牧師を例に出したが、あれは”I have a dream.”と最初に入っているところがみそで、私には夢がある。そのあとにやはりいろいろな状況を語って、みんなもそうでしょうと語る。そして最後いつやるのか、今だ。要するにストーリーオブセルフ、私の物語、私はこう思っている。私の思いはこうなのだ。でもみんなそうでしょうと、そこでみんなの物語にしていく。ではそれをいつやるのか。今でしょうというかたちで、この3段階でやっていくと人の心は盛り上がっていく。それでいくと今回のこの作りというのは、元々そういった一人ひとりの思いがあったものが抽象化されて行政文書的になって、その魂が抜けてしまっている部分がある。そこをもう1回、私はこう思うのだというその思いが透けてくるようなそういう表現というか、思いが出てくるような言葉に換えていただきたいということだと思う。

行政文書でそういうことは難しい感じもするが、この審議会の総意としては、多少行政文書としてはあれかもしれないが、やはり心に響くものにしてほしいというのが総意だと思うので、その意向を受けて考えていただきたいと思っている（会長）

○この1～6の括弧の中の作りを見たら、タイトルを何々、例えばここの4番は「快適で便利なまち」をつくります。どれも最初の行が「つくります、つくります」になっている。そして、例えばここはつくれるだろうけれどもこちらはどうしてもつくれないものではないか。無理なことまで「つくります」と全部統一されているということが、行政側が思い過ぎるのではないかと、いけませんというより行政のニュアンスはこれを「つくります」で書いてしまうと重過ぎませんかというような、4番などはそう思った。

そのあとの「目指します」や「図ります」、「努めます」というものをどのように区別されて書かれていたのかということを思ったのと、輝く人やいきいきと暮らすというような言葉遣いはもう昔の言葉だと感じてしまう。逆になくてもいい枠の中はあるような気が、私はした。（委員）

○ポイントは2点あって、「つくります」や「努めます」、「図ります」といった部分の表現である。ここは確かに「つくります」と言ってしまうと、それを完成するという感じになってしまうので、かといって「努めます」というようなものは少し弱過ぎる。

その辺りはほどよい表現をしていただけるといいかと思う。今そもそも「つくります」という、何々のまちというようなかたちが使われているからこういう書きぶりになるが、むしろ柱の書きぶりも何々のまち、何々のまちとしなくてもいいのかもしれない。むしろ本当に成し遂げたい柱を何々の実現や、何か考えていただければ。あまり型にはまった表現にしなくてもいいということが１点。

もう 1 つは、すこやかにやいきいきとしたという型にはまった表現はあまり使わなくていいのではないかという、それはそれである。こういう言葉というのはごまかしが効いてしまう分、心に響かないという弱点があるので、できる限り心に響く表現でやっていただけるといいかと思う。（会長）

○この第 1 章と第 2 章についてだが、これを見ている中で一番大事なことはこの「子育てと学びをみんなで応援するまち」というところで細かく申しあげたい。教育問題について学童たちが 1 年生、2 年生に上がっていったとき、初めて教育に目覚めるのは 3 年生以上だと私は思う。その子どもたちは今何をして遊んでいるかというと、皆さん方は十分ご存じだろうか。放課後学校から帰されるとほっとした気持ちになる。自由なのである。

その自由を何をして遊ぶか。今スポーツがはやっている。スケートボード、裕福な家庭では自転車を買っている。遠くからでも遊びに来る。私のところの団地の中に、舗装してある。スケートボードをやったら車にバタンとなど、問題はあるがこの宇美町全体に子どもの遊び場がないということははっきり言える。広場がないということ、ここが問題である。だから先ほど皆さん方のこのまちづくり協議に上がっている、この総合計画、このものについてだがこれは未来の像だと思う。言葉はきれいに書かれているが、レベルの高い言葉であって低いところを見ていない。もう少し下を見て考えてほしいと思う。（委員）

○重要なご指摘である。例えば課題の部分をもう少し徹底的に洗う必要があるのだろう。そこが多分不十分に美しい言葉でいってしまっているから、課題の分析、具体的な把握ということが十分でなく、その結果この中身が非常にぼんやりとした感じになってしまっている。例えば「子育てと学びをみんなで応援するまち」と言っているけれども、例えば遊び場がどのくらい宇美町にあってという、そういったことは全然意識していないのではないかという、非常に重要なご指摘だったと思う。ぜひ、この柱立ての言葉にあまり左右されることなく、要するにここでは子どもの育ちと学び、これは遊び場も含むが、そういったことを応援するということだから、まずその状況がどうなっているのか。どこに課題が今現在あってという、そこをまずあきらかにしたうえで、みんなで応援するとこうくる。そうすると、そこで何か足りない部分、誰が何をするのかというやはり具体的な、私どもが論文を書くときなどはタイトルは

極めて抽象的である。ただ、抽象的だが極めて具体的に僕らは思ったうえでこの抽象的なタイトルを書く。

そのように、タイトルは抽象的でもいいがとことん具体的に理解していないといけないということだろうと思うので、その作業を引き続きやっていただきたいと思う。（会長）

〇委員のご意見を聞いて思ったが、小さい子が遊べるかどうか、公園があるかどうか、空き地があるかどうかだと思う。不登校のことを先ほど言ったが、全国で大体 20 万人、実際は 30 万人、40 万人いると思う。ほとんどが幼少期の遊び仲間、遊ぶ時間、遊び友達がいない。その辺りも宇美町は目を向けて改善、改革をしていくような流れをこれからつくっていくというのが大事だと思う。

ついでに言うが、今仕事の関係でいろいろな学校に行ったり中学校に行ったりしているが、先生たちがもう死に物狂いである。小学校の教師でさえも 100 時間くらい残ってするのが普通である。だからここに載っているような教師崩壊ということが今起きている。だからその辺りについても学校教育の中で、この中で少し示唆するようなインパクト性を与えていかないと、いいですよ、今のままで結構なのですではなく、やはり希望も湧くけれどもその前の危機感も持てるような工夫をされたらどうか。そうしないとやはりこれを使いようがないと思う。だから形としては残っても、これが 5 年後、10 年後、20 年後、50 年後に残すような皆さんの努力をされたほうが、皆さんが自分の仕事に誇りを持てると思う。

そういった意味で委員さんたちがおっしゃっているのもそうだと思う。やはり住民の立場で物をおっしゃっているので、私も含めて住民の声、子どもの声、赤ちゃんの声と思って、あとひとふんばりされたらどうか。（委員）

〇今のご意見を踏まえても、やはりこの柱はいいがここでいきなり政策的な柱がぶら下がるのではなく、まずその前に具体的に課題、問題点を、この子育てと学びを巡る宇美町で今生じる問題点をもっと具体的に羅列していただくほうがいいのではないか。それがないとこの言葉が抽象的になってしまって浮いてしまうような気がする。例えば今のお話からすると、確かに教員が大変忙しい。最近は部活の指導については地域に任せていくというような方針が出たが、例えば島根県の出雲市などでは教員がいろいろな部分で大変だということで、一定の作業、管理の一部だがある書類作りやできる部分を住民の方々に任せる。住民の方でボランティアをつくっていってそういったものを任せていくということをやっていたりする。

その「みんなで応援するまち」とは具体的に何をするのかというときに、例えばそういうことだと思う。そういう具体的なイメージを持って「みんなで応援するまち」とちゃんと使っているかということである。その具体性がないままなんとなく「みん

なで応援するまち」と言っても、それはキャッチフレーズに過ぎなくて、何の実益も持たないと思う。そういう意味でももっと課題を具体的にきちんと列挙していただきたいと思う。例えばここで言うと最近話題になっているヤングケアラーの問題などがある。子どもが親や祖父母のお世話が大変で、友達と遊ぶ時間がなかったり、学習することができなかったり、部活ができなかったりする子どもたちがいらっしゃる。そういった問題が例えばここで具体的に挙がっていれば、そのうえで「みんなで応援するまち」と出てくれば、具体的な施策などがつながってくるわけだが、それがないとやはり既存の事業を単にここにぶら下げてくるだけという話になってしまうので、やはり各柱ごとに課題を列挙していただく。

そしてできればこのメンバーの中でこの点が足りないではないかというようなご指摘をいただきながらそこを充実させていくようなことがあったらいいのかとも思っている。今回だけで確定ではなく、先ほど申しあげたとおり今後実践計画、基本計画の部分の審議と行きつ戻りつというか。そのようにしながら柱のタイトルやあるいはこの共通の目標、この将来像も変わっていくと思うので、今回はあくまで全体的な方向性として議論していただいた。

確認になるが全体としてもっと心に響く内容にしていただきたいという部分が一番大きい。この第 2 部については、そして柱自体がこの 6 つでは駄目だという話ではどうもなさそうである。ただ、心に響かないし具体性に乏しいので、そこは課題をもう少し柱ごとにきちんと挙げていただいて、それに基づいてこの柱のタイトルを再考していただきたい。そのときもできるだけ心に響くような言葉を入れていただきたいということである。第 1 部に関しては、やはりデータの出し方や課題の分析が十分でないので、そこをきちんと、危機的な状況は危機的な状況として示すということである。それがあって初めてこの目標というものが生きてくるはずなので、そこをしっかりやっていただくということと、あとこれまでの計画、従前の計画の到達点ということをきちんと見極めるような節を入れていただきたい。（会長）

４．閉会あいさつ

→嶋田会長においては議事進行本当にお礼申しあげる。委員の皆さま方においては、貴重なご意見をいただき誠にお礼申しあげる。先ほども申しあげたとおり、次回の審議会については 8 月か 9 月ごろを予定しているので、日程については決定次第ご案内させていただくので、よろしくお願いしたい。それではこれをもって第 3 回総合計画審議会を終了させていただく。